

認定こども園ともいき 令和元年度自己評価結果公表シート

1 本園の教育目標

- | |
|---------------------------------------|
| 1 心豊かな子ども
2 明るい子ども
3 進んで行動する子ども |
|---------------------------------------|

2 本年度、重点的に取り組む項目

認定こども園ともいきの求める職員の人物像は、次の3つである。 (1) 和顔愛語 すてきな笑顔と気持ちのいい挨拶をする人 (2) 同事協力 職場の人と息を合わせて仕事をする人 (3) 智慧希望 素直に人の意見や物事を受け入れ、よく考えて積極的に仕事をする人 これらを実現するために、まずは人間性の基礎となる笑顔と挨拶を徹底できるよう組織的に取り組んでいくことを重点事項とする。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

認定こども園教育保育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・方針に従い指導計画を作成する。	主体性を重視し、子どもの実状に合わせた活動が展開された。教育保育要領や園の理念等の理解、これに基づいた指導計画の作成と反省がやや不十分。
教育の質を高めるため、研修を充実させる。	園内研修については、すべての保育者がいずれかの研修を受けることができた。保育実践研究6回、外部講師による笑顔と挨拶の研修を3回、毎月の職員会議に合わせて児童憲章や園の理念等の研修など。園外研修も多く参加できた。 園内の指導体制は改善が必要。
園児の良さを認め評価する	園児一人ひとりの関わりや読み取りを意識できた。 総合的な視点での保育や、職員体制に不十分な部分がある。
園の情報を発信する	クラスだよりは定期的に発行され保護者にコンスタントに情報が提供された。またブログ等WEB上でも園児の様子を伝えることができた。 ただし、的確に伝えられているか、子育て意欲の向上に繋がっているかについてはやや評価が低い。
園環境を整える	自然との直接体験ができる環境としてはおおむね良いが、これを保育に活かす計画性に改善の余地がある。 その他向上が望まれるものは、園児の生活時間の違いへの配慮、設備や遊具の定期的な点検、教材管理、防災防犯体制。

4 認定こども園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

概ね目標等に向け意識して取り組むことが出来た。しかし各項目に課題点もあるので改善に向けて組織的に取り組んでいく。

5 今後取り組むべき課題

自然環境を活かす計画性	環境そのものは充実してきている。これを保育に活かすための計画性と保育者の質を高める。
一人ひとりに配慮した保育	園児それぞれの特性や家庭との繋がりに配慮した保育を提供できる体制づくり。
地域の理解の推進	地域社会、小学校、子育て世帯など、園外の繋がりを意識した計画。 地域へ向けた情報の発信。

6 認定こども園関係者の評価

全体的に適正な計画が生まれ、教育・保育が行われている。
特に評価した点として、年齢に合った課程、良い部分を伸ばす取り組み、主体性の育成、設備整備など。

検討事項としては次のものを挙げた。

小学校の学習課程の変化による、年長の英語環境の充実。

年度後半のブログ後半更新数の低下、保護者のニーズに合う工夫。

(新型コロナウイルスによる) 園庭や室内の使い方に考える点有り。

第三者評価の受審。

園内で理事長等による理念の研修などの更なる充実。